

公の施設の指定管理者における業務状況評価

平成27年9月7日

施設名	高知県立美術館	所管課	文化推進課
-----	---------	-----	-------

1 施設の概要

指定管理者名	公益財団法人高知県文化財団	指定期間	平成26年4月1日～平成31年3月31日
施設所在地	高知市高須353番地2		
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> ・美術品及び美術に関する資料の収集、保管及び展示 ・美術に関する専門的な調査研究 ・美術に関する講演会、講習会、研究会等の教育普及活動 ・美術品等の展示のための県民ギャラリーの提供 ・音楽、演劇等の鑑賞のためのホールの提供 ・上記のほか、美術館の設置の目的を達成するために必要な業務 		
施設内容	<p><建物> 延床面積4527.47㎡ RC造地上3階建</p> <p><建物> 延べ床面積:117,723㎡ 鉄骨鉄筋コンクリート造地上3階建</p> <p><土地> 19,574㎡ 駐車場 144台</p> <p><主要施設> 常設展示室、企画展示室、石元泰博展示室、県民ギャラリー、講義室、創作室、ミュージアムショップ、レストラン、美術館ホール(399席)など</p> <p><開館時間> 午前9時～午後5時(ホール、リハーサル室及び楽屋は午前9時～午後10時)</p> <p><休館日> 12月27日～1月1日</p> <p><主な料金> 常設展 一般360円・大学生250円</p> <p>※高校生以下、高知県長寿手帳(65歳以上)、身体障害者手帳、療育手帳、精神障害者保健福祉手帳、戦傷病者手帳、被爆者健康手帳を所持する者と介護又は介助者1名、高知市長寿手帳を所持する者は無料</p> <p>施設利用料 県民ギャラリー21,830円(1日)、企画展示室54,620円(1日) ホール1日39,170～47,210円</p>		
職員体制	常勤職員: 15人	契約職員: 14人	合計: 29人

※職員数は平成26年4月1日現在

2 収支の状況

単位:千円

		平成25年度(決算)	平成26年度(決算)	平成27年度(予算)
収入	県支出金	302,954	326,169	349,705
	事業収入	52,984	27,206	71,402
	その他	38,674	16,065	168
	収入計	394,612	369,440	421,275
支出	事業費	394,612	369,440	421,275
	(うち人件費)	(126,019)	(126,816)	(140,229)
	その他	0	0	0
	支出計	394,612	369,440	421,275
収支差額(a)-(b)		0	0	0

3 利用状況

		平成25年度(実績)	平成26年度(実績)	前年度比較
年間利用者数 合計 (単位:人)	常設展	8,527 人	5,303 人	- 3,224人
	企画展	41,578 人	24,443 人	- 17,135人
	美術館ホール	2,089 人	2,626 人	+ 537人
	小計	52,194 人	32,372 人	- 19,822人
	貸館	72,655 人	40,552 人	- 32,103人
	貸館(ホール)	30,554 人	30,854 人	+ 300人
	県民ギャラリー	69,655 人	60,471 人	- 9,184人
	小計	172,864 人	131,877 人	- 40,987人
	合計	225,058 人	164,249 人	- 60,809人
	<p><利用実績></p> <p>展覧会入場者数 41,702人(常設展5,303人 企画展24,443人 特別展=昨年度より引き続き「ミレー展」11,956人)(対前年比44%)</p> <p>石元泰博展示室等の整備のため約4ヵ月休館したこともあり、入場者数は集客力のある大型企画が続いた前年度を下回った。</p> <p>一方で、歴史民俗資料館との共同開催による四国へんろ展で13,572人、10月から新たに石元泰博の常設展示を開始したことで、最終的には41,702人の展覧会入場者となった。</p>			

4 県の要求水準に対する評価

優れた芸術の魅力を伝えるとともに、独自のコレクションを後世に伝える

要求水準－収集・保存

収集方針に基づき資料を収集し、適切な保存・管理を行う

評価項目

(1) 本県出身の作家を中心として、特色ある資料の充実に努める

状況説明

・高知県ゆかりの作家である田岡秋邨、石川寅治、河田小龍ら6作家の計 17 点(総評価額 2,800,000 円)と、石元泰博愛用のカメラ(ローライ・フレックス)を収集し、適切に収蔵庫で保管した。
・これらのうち、ニコラ・ポワニョンの版画作品は、いの町で開催された「第9回 高知国際版画トリエンナーレ」の「高知県立美術館賞」受賞作であり、地域で育ててきた国際的な展覧会における秀作を収蔵することができた。
・また、石元泰博フォトセンターの活動成果の一端として、石元愛用のカメラも寄贈を受けることができた。

評価	理由
A	・当年度においても、高知県ゆかりの作家の作品及び補助資料を対象にした収集方針に則り、継続的に寄贈を受けている。 ・昨年度に設立した石元フォトセンターも順調に活動しており、貴重な資料の収集ができた。

評価項目

(2) 資料の整理・分類、点検・劣化防止等の処置を適切に行う

状況説明

1) 収蔵庫

空調設備を更新し、24時間空調の体制を整えた。収蔵庫の前室に監視カメラを導入し、収蔵庫扉のカードリーダーを更新するなど、セキュリティアップにも取り組んだ。新収蔵品を含む収蔵資料についても、適切な整理・分類・点検を継続的に行っている。

2) 石元泰博フォトセンター

脆弱なため低温低湿の環境が欠かせない約 15 万点のフィルム専用の保管・作業室や 5000 冊を数える石元蔵書専用の書庫を設け、貴重な写真資料の整理、劣化を防ぐ適切な環境整備を行った。また、フィルム保管室前にも監視カメラを導入するなど、十分なセキュリティを確保した。石元の関連資料(大学卒業証書)の修復を行い、修復後、展示公開も行った。

3) 展示室

展示室には暗視カメラを導入し、24 時間の警備を行い監視映像は一定期間保管をしている。また、「四国へんろ展」開催準備にあたっては、文化庁や東京文化財研究所の指導のもと、展示室内や展示ケース内を指定文化財の展示にふさわしい環境に整えた。また、未くん蒸の借用資料を展示した後は、速やかに展示室内の殺虫・殺菌処理を行うなど、展示・保存環境の維持・改善に努めた。

4) 書庫・アート情報コーナー

改修工事に伴う休館中、書庫及び旧ライブラリーに所蔵している約 2 万冊の図書資料の台帳更新を行い、データと現物の確認や、ラベル貼り替えなどの大規模なばく書作業を行うとともに、新たなデータベース構築に向けた作業にも着手した。また旧ライブラリーをアート情報コーナーにリニューアルするにあたり、ネット検索の端末を置くなど新たな情報サービスにも取り組んでいる。

5) その他

改修工事に伴い、旧ライブラリー前に設置していたポテロの彫刻作品を1階に移動させ、併せて傷みやカビが発生していた台座を作り直すなど適切なメンテナンスを行った。収蔵庫、展示室以外のバックヤードなど、美術館施設全体の恒常的な保存環境とセキュリティ整備の両面から、適切な管理を行い、館内環境を科学的に調査するモニタリングも確実にを行った。また、学芸員が全国美術館会議の保存研究部会や九州国立博物館のミュージアム IPM のプロジェクトに参加するなど、保存科学に関する資質向上にも努めた。

評価	理由
A	<ul style="list-style-type: none"> ・展示作品の状態に合わせて、適宜専門機関と調整し保存環境の維持向上に努めた。 ・「四国へんろ展」開催準備のため、文化庁等の指導のもとに展示室内や展示ケース内を指定文化財の展示にふさわしい環境に整えた。 ・膨大な蔵書について整理を行うとともに新たなデータベース構築に向けた作業に着手した。 ・学芸員も研究会等に参加するなど、保存環境に対する資質向上に積極的に取り組んだ。

要求水準－調査・研究

収蔵資料の調査研究を進め、その成果を公開する

評価項目

(1) 職員の専門性の向上を図るとともに、調査研究の成果を、資料の公開や図録・記録集の作成等により、広く発信する

状況説明

- 1) 新人学芸員研修
先進的な専門美術館での長期研修を2件行い、スキルアップや美術情報ネットワークづくりに努めた。また、3年間の指導計画をもとに、年間を通じて日常業務の中で計画的に指導を続けた。
- 2) 海外招聘
イギリスの公的な国際文化交流機関であるブリティッシュ・カウンシルから招待を受け、教育担当学芸員がロンドンなどの美術館における新たな取り組みを調査し、日英の美術館教育関係者とのネットワーク構築に成果をあげた。また、ホールプロデューサーがスペインから招聘を受け、国際的なフェスティバルの視察を行った。館長も、カナダなどから招聘された。
- 3) その他、調査・研究会等
石元フォトセンター担当学芸員がパリの写真アートフェアや写真市場を調査した。また、絵金蔵の協力を得て絵金祭りの運営に関する研修を近世美術担当学芸員が行った。さらに、全国美術館会議の保存研究部会などで学芸員が活動した。他にも、研究成果の発信やネットワーク活動の一環として、学芸員が県内の大学で美術史や美術館学に関する講義を行った。
- 4) 展覧会等
「プライベート・ユートピア」展は、全国4館でイギリスでの現地調査から共同で企画し、その成果は図録に総集した。また、自主企画展「高知県立桃源郷 新・高知の造形文化」では、出品作品と制作者を取材した記録集を発行し、長年にわたる造形文化調査研究の成果を発表した。コレクション展は「高知家の宝もの」展などを開催し、それぞれ調査研究成果を解説パネルにしたり、パンフレット等として配布するなどし、来場者の好評を得た。また、27年度の企画展準備として、全国4館との共同企画展「ゴー・ビトゥーンズ こどもを通じて見る世界」や、西宮市大谷記念美術館(兵庫)との共同企画展「没後20年 具体の画家－正延正俊」展でも、綿密な共同調査・研究を行い、論文等を分担執筆するなど、成果を発信するための準備を進めた。
ホール事業では、アーティスト・イン・レジデンス活動の報告書をバイリンガルで作成し、国内外の関係者、関係施設に配布した。

評価	理由
A	<ul style="list-style-type: none">・職員の勤続年数や専門分野に合わせた研修や研究会等への参加を積極的に実施し、資質の向上、人脈づくりにも努力が認められる。・調査研究について、他館との協力体制を確実に構築している。また、それらの活動から得た成果を図録などで報告し発信を行っている。・ホール事業についても、成果の報告を国内外に発信している。

評価項目

(2) 石元泰博コレクションの調査・研究を進め、適切な利活用を図る

状況説明

石元泰博展示室がオープンしたことで、石元泰博フォトセンターは専用の常設展示室、フィルム保管・作業室、石元蔵書用書庫といった活動拠点をもつことができた。結果、下記のとおり、深める(保存管理、調査研究、収集)、広める(展示公開、著作権管理)、つなぐ(教育・普及)という三つの活動をそれぞれ本格的に展開することができた。

1) 「深める」活動

全プリントのうち約91%の簡易複写を終えた。石元写真が掲載されている約190件の関連文献の複写収集を国立国会図書館や東京都写真美術館、武蔵野美術大学等の協力を得て進める一方、アメリカのギャンプル邸や青森県立美術館、東京大学資料編纂所など、国内外の研究機関からの調査もできる限り受け入れた。

2) 「広める」活動

オープン時から3期にわたる「石元泰博展示室オープン記念 石元泰博写真展 この素晴らしき世界」を開催し、石元氏の代表的なシリーズから作品を紹介し、大きな反響を呼んだ。展示室内には、石元愛用の家具を配置したコーナーを設け、カメラや初版作品集、卒業証書など関連資料も展示した。また、展示室内用タブレットでは818点、アート情報コーナー専用の端末PCでは約17,000件、専用ウェブサイトではオープン記念展の全97点の画像公開を行い、石元資料の利活用を促進させた。著作権許諾についても、適切な管理と運用を行い、53件の相談のうち48件を許諾、国内外の美術館やギャラリー、大学の図録やウェブサイトを通じて石元作品を広めることができた。また、学芸員をパリフォトや東京フォトに派遣するなどし、国内外の写真界に対する周知活動にも努めた。

3) 「つなぐ」活動

開室記念式典に併せて写真評論家の飯沢耕太郎氏の記念講演会を行い、石元の母校・県立高知農業高校と共同作成した記念品を贈呈するなど、関連事業にも力を入れ参加者の好評を得た。センターの概要を紹介するリーフレット(日本語版・英語版)、ポストカード、展覧会パンフレットも統一したデザインで作成した。また、石元のもうひとつの母校・土佐市立高岡第二小学校の全生徒・教員を対象に、事前授業を行ない、貸し切りバスを使って当館に招待し作品を鑑賞するプロジェクトを行ったことは、今後の学校連携や鑑賞教育のモデルケースとなる大きな成果をあげた。また、土佐市の地域祭「山の手ふれあいフェスタ」では石元に関するコーナー展示を行い、フォトセンター担当学芸員による外部講演会も3件行った。専用ウェブサイトは定期的な更新を心がけ、H25年の開設以降ページビュー数も順調に伸びている。

評価	理由
A	<ul style="list-style-type: none"> ・展示室をはじめとした石元フォトセンターの活動拠点が整備されたことで、資料の整理や適正な保存、調査研究が順調に行われている。 ・展示では、石元作品の魅力を十分に発揮した内容の展覧会を実施した。 ・資料整理や調査研究活動を基盤にして、教育普及活動にも尽力しており、フォトセンターの活動の3つの柱をそれぞれ着実に遂行し成果を上げていると評価できる。

要求水準－展示・公開

質の高い、優れた芸術に触れる機会を提供し、芸術や文化に対する関心を深める

評価項目

- (1) 世界有数のシャガールコレクションの展示など、質の高い魅力的な常設展・企画展を開催し、5年間で25万人以上の観覧者を目指す

状況説明

①シャガール・コレクション展

「聖書の世界」をテーマに、毎回変化のある展示空間を目指し何度でも見たくなる展覧会を工夫した。

②石元泰博コレクション展

代表シリーズからベストセレクション展を三期にわたって開催した。併せて、家具などを配したコーナーや愛用カメラ、映像作品などを紹介し、関連資料を豊富に有するフォトセンターならではの展示とした。

③コレクション・テーマ展「没後50年 石川寅治展」

まとまった石川作品の紹介は2002年以降開催しておらず、その後の調査・研究成果を発表する貴重な機会になるだけでなく、行方不明の作品を発掘するきっかけにもつながった。

④コレクション・テーマ展「高知家の風景－ノスタルジー散策－」

日本画・洋画など様々な作品を通じて、画家たちが郷土をどのように表現してきたかを検証した。

⑤「高知家の宝もの 一村山槐多からヨーゼフ・ボイスまで」

所蔵品を国や時代、ジャンルというありがちな枠組みではなく、それぞれの作品のつながりや響き合いを感じ取ってもらう工夫を行い、コレクションの新たな魅力を伝えることができた。

⑥「四国霊場開創1200年記念4県連携事業 空海の足音 四国へんろ展」

企画運営は県立歴史民俗資料館、展覧会場のマネジメントと広報を当館が担当するという今までにない協力体制で行った。

⑦「プライベート・ユートピア ここだけの場所 ブリティッシュ・カウンシル・コレクションにみる英国美術の現在」

イギリスの公的な国際文化交流機関であるブリティッシュ・カウンシルの所蔵作品から、日本初公開作品などを紹介し、英国美術の最前線を魅力的に伝えた。全国4美術館の共同企画展であり、作品・作家調査から図録執筆まで共同、分担して行った点も高く評価された。

⑧「高知県立桃源郷 新・高知の造形文化展」

高知の人々のもつ造形力とそのこだわりを検証した自主企画展。制作者を取材した記録集を作成し、長年にわたる有形無形の高知の貴重な造形文化調査研究の成果とした。

上記の取り組みにより、入館者数は41,702人となったが、年間5万人の目標は達成できなかった。

評価	理由
A	<ul style="list-style-type: none"> ・石元常設展示室がオープンし、石元とシャガールの2大コレクションをいつでも鑑賞できる体制が整った。企画内容も来館者を飽きさせない努力をしており、充実したコレクションを有する高知県立美術館にしかできない展覧会を実施している。 ・その他のコレクションについても新しい切り口での展示に挑戦しており、評価できる。 ・企画展においては、初めての試みとして同財団内の県立歴史民俗資料館との共同企画展に取り組んだり、これまでの地道な調査活動や他館との協力によって蓄積してきた研究成果を発揮する上質な展示を行っており、評価できる。 ・4ヶ月の長期休館を勘案すると、目標を十分に達成し得る入館者数と認められる。

評価項目

(2) ホールの特性を生かした事業を実施し、美術館の魅力向上に努める

状況説明

- 1) ユニット・シアン公演「シアンの孤独」 1公演
 舞踊界では世界的に高い評価を受けている金森穰と井関佐和子による美術館を創作の舞台にしたオリジナル作品の第3弾。初めて舞台作品の出演者を一般募集し、一般の方から高校生までが参加した。作品は井関佐和子のソロ公演となり、県民が期待する質の高い作品に触れる場を提供した。出演者・観客共に芸術や文化に対する関心を深める公演となった。
- 2) 海外招聘公演フランソワ・シェニョー & セシリア・ベンゴレア
 「TWERK-ダンス・イン・クラブナイト」 1公演 ワークショップ1回
 青山円形劇場、京都国際舞台芸術祭 2014 と共同で海外招聘した公演。共催や助成などの面で、国際機関と協力を行った。本公演はクラブを再現したような舞台となり、ヨーロッパの最先端のダンス作品に触れることが出来た。また小学生から中学生を中心としたダンス経験者を対象としたワークショップを行い、貴重な体験を提供することが出来た。
- 3) ビリー・カウイー レジデンス & 公演「アート・オブ・ムーブメント」「ダーク・レイン」
 「平らな空の下で」 ホール上映会1回 ワークショップ & ディスカッション1回 1公演
 アーティスト・レジデンス事業及び新作公演。ブライトン大学との共催、アーツカウンシル・イングランドからの助成など国際機関とも協力した。高知市に長期滞在し、作品を創作し公演を行った。出演者はオーディションを行い、地元のダンサーも参加した。当館ならではのオリジナル作品が完成した。公演周知のため、開館記念日にビリーの過去の3D作品の上映や、映像ワークショップを行うなど、広く県民が海外とつながりを感じる事業を提供できた。
- 4) 定期上映会(春夏秋冬)11日間計26本上映(ニューヨーク近代美術館短編含む)
 多様な国で製作されたサイレントフィルム、実験映画から劇映画まで多彩な映画を上映し、映像表現の可能性を広く県民に紹介することが出来た。また上映会に併せて、台湾映画に出演した歌手の中孝介氏などの講演を行い、映画に対してさまざまな切り口の話を行うことが出来た。

評価	理由
A	<ul style="list-style-type: none"> ・ホール事業では、演劇、舞踏、映画の分野を中心に多彩な舞台芸術を県民に提供した。 ・公演を単に鑑賞するだけでなく、ワークショップを行うことで、県民に直接舞台芸術に触れ体験する機会を設けた。 ・高知を創作の舞台とした館のオリジナル作品を制作し、国際的なネットワークを活用し協力関係を築くことで、高知県立美術館の名を海外に発信した。

評価項目

(3) 講演会やギャラリートークの実施など、来館者の芸術や文化への理解を深めるためのサービスを充実させる

状況説明

1) ギャラリートーク

企画展・常設展は定期的に学芸員及び解説補助員による作品解説を行い、展覧会及び作品への理解を深めていただく場を提供した。学校団体や一般団体客についても要望に応じて解説を行った。

2) 講演会等

各展覧会では、作家や作品内容に多角的な視点から理解を深めていただくために、作家本人や研究者、美術館関係者による講演会、レクチャー、シンポジウム等を開催した。「プライベート・ユートピア」展では英国から講師を招き、英国の美術館と地域との関わりについて講演を行った。また、美術館の教育普及に専門的に携わる関係者に対する体験型のセミナーを行い、地域の美術教育者の資質向上に協力した。他にも、会場で英会話しながら作品鑑賞を行う画期的なイベントを開催した。

3) ワークショップ

「プライベート・ユートピア」では年配の女性向けのフラワー・アレンジメントの講座を開講するなど、対象と内容を勘案しながら、各展覧会で実施した。

4) その他

すべての展覧会の作品キャプションはバイリンガル(2か国語表記)を標準とし、外国人へのサービスを心がけた。また、他館の展覧会ポスターの掲示版を1階に移し、美術情報の周知・広報に努めた。「石元展示室」開設に伴い「アート情報コーナー」を設け、画集、雑誌など美術関係の文献を揃え、またアート情報の端末PCを配備した。美術館ホールでは過去事業のポスターを適宜入れ替えながら掲示し、幅広い事業実績を紹介した。

評価	理由
A	・学芸員だけでなく解説補助員も定期的にギャラリートークを行っており、来館者サービスの向上に努力が認められる。 ・企画展に併せて、各専門分野の講師を招き、県民がより一層理解を深められる機会を設けている。また、地域で活躍する美術関係者の人材育成も行っている。

要求水準－教育・普及

様々な年代を対象とした教育・普及活動を行う

評価項目

(1) 学校や関係機関と連携を図り、子どもたちの芸術や文化に触れる機会を充実させる

状況説明

1)これまでの活動の見直しを行い、総合的な「スクールプログラム」としての可能性を検討した。
 ①調査・相談:学校の授業の一環として、美術館ならではの文化資源を活用し子ども達の育成に寄与する可能性や促進方法について、県や市町村の教育委員会、また公立・私立の小・中学校美術教員や美術教育等の研究会等を訪ねて課題を探った。
 ②プログラム:各市町村教育委員会の管轄から小中学校を対象に1校以上の美術館利用を促すといった戦略的なプログラムの新規立案を進めた。

2)出前びじゅつ講座
 当年度は、石元泰博の母校である土佐市立高岡第二小学校と連携し、学芸員が教員と綿密な打ち合わせを重ね、要望に応じた様々な内容の授業を事前に行い、その後美術館を実際に見学することでスムーズな鑑賞授業を行えるよう工夫した。

3)出前クラシック教室
 高知県内で活動している4名組の音楽家グループと小中学校に出向き、ホールではない教室という身近な空間で、本物の音楽に触れる機会をつくった。戸波中学校、いの南小学校など7校で開催、音楽の楽しさを伝える授業を丁寧に行い、音楽への理解が深まったと好評を得た。

4)バス代支援事業
 土佐市教育委員会を通じて土佐市立高岡第二小学校の全校生徒と教員を、バスを借り上げて美術館に招待した。学年に応じたプログラムを組み美術館を楽しんでもらい、今後の活動のモデルケースとなる大きな成果をあげた。

5)その他
 四国学院大学との連携で、人材育成のためのアートマネジメント実践講座を開催した。高知医療学院との連携では、「新・高知の造形文化展」で事前授業と学生の同展見学、ホール事業では「ユニット・シアン」公演見学を93名受け入れた。博物館実習は8名、インターンシップでは5名を受け入れた。また、須崎市や室戸市の教育研修部会図工・美術部会で教員向け講座を行った。県内大学にも非常勤講師として、学芸員を定期的に派遣している。また、学校等各種団体からの見学、レクチャー等の依頼も積極的に受け入れ、学校の自主的な美術館利用は、35校 1,396名を数えた。その中に、土佐市内の保育園児約190名の受入という新たな試みも含まれている。

評価	理由
A	・これまでの活動を見直し、より教育現場の要望に沿った教育普及事業を実施するため、教員との連携を強化し、モデルケースとなる事業を行った。 ・出前びじゅつ講座や出前クラシック教室は子どもたちに本物の美術や音楽に楽しく接してもらい、興味をもってもらえる意義のある取り組みになっている。

評価項目

(2) 幅広い年代の方に、芸術や文化に親しむ機会を提供する

状況説明

1) 企画の内容

展覧会では、当館の優れたコレクションを幅広く紹介する「高知家の宝もの」、歴史民俗資料館と共同で企画した「四国へんろ展」、英国の最先端の美術を紹介する「プライベート・ユートピア」、県内のものづくりの面白さを紹介する「新・高知の造型文化展」を開催し、幅広い年代層を考慮した企画展ラインナップを形成した。

ホール事業では、春夏秋冬の4回の定期上映会で、台湾映画、怪獣映画、イギリス映画、ニューヨーク近代美術館所蔵のサイレントから劇映画、実験映画までの幅広いアメリカ映画など多様なジャンルの映画を上映し、子どもから年配の方まで幅広い年代の方が楽しむ機会を提供した。

2) 創作支援

芸術活動の発表の場として県民ギャラリー等の貸し出しを行った。改修工事のため3か月間休室したが、第4展示室を当該年度限りとして特別に貸し出し、サービスの低下を極力回避した。(31団体) 美術館ホールはのべ234件の利用があった。

3) ささまざまなサービス

- ・展覧会で毎週日曜日に開催しているギャラリートークでは手話通訳、英語通訳付きの回を設定し、展覧会をより親しんでもらえる場を提供している。
- ・キャプションの文字を大きくしたり、難読の文字にはルビをふるなど、幅広い年代の鑑賞者に対するサービスを行い、好評を得ている。
- ・企画に合わせ託児サービスを行った。当年度は5回実施し、利用者は12名であった。

4) その他の取り組み

- ・「四国へんろ展」では会期中の金曜・土曜日に夜間開館を実施し、鑑賞しやすい機会を提供した。
- ・開館記念日は無料開館し、館内をめぐるスタンプラリーを行うなど、家族での鑑賞促進に努めた。
- ・1月2日～4日の212人の来館者に対し、ポストカードをプレゼントし、好評を博した。また3日にはコレクション展「高知家の風景-ノスタルジー散策-」の会場内で箏曲の演奏を行い、正月らしい華やかさを演出した。

評価	理由
A	<ul style="list-style-type: none"> ・幅広い年代の要望に沿った多彩な事業を実施している。また、通訳付きのギャラリートークや託児サービス、夜間開館など、来館者の多様なニーズに応えられるよう努力していることが認められる。

評価項目

(1) 美術館活動に関する戦略的な情報発信により、県内外に館の魅力を広める

状況説明

1) 広報戦略

月1回開催の広報部会及び館会議で広報の展開状況を検証するとともに、個々の展覧会やホール事業ごとに、それぞれの特性を活かした独自の広報の可能性を検討し、実施した。

2) 情報発信

- ・速やかに情報を提供し、新聞雑誌、県内外の情報誌、WEB 媒体などに掲載した。
- ・展覧会・ホール事業のチラシ、ポスターなどの広報物を、時間に余裕をもって作成し、全国の関係機関に送付した。印刷物は担当がデザイナーと協議を重ね、洗練された広報媒体となるよう努めた。
- ・美術館年間スケジュールは前年度の早い時期に制作し、配布した。
- ・年4回の「ケンピレター」は催し物に親しんでいただく読み物として作成し、県内に広く配布したほか、関係機関に向け発送した。
- ・開館20周年記念誌を発行し、2004年以來の10年間の活動をビジュアル化して整理し、年報と共に全国の美術館に向け発信した。
- ・県内メディアに働きかけ、テレビ・ラジオ出演して広報に努めたほか、「新・高知の造型文化展」ではテレビCMを制作して放送した。
- ・前売券販売先ではポスター掲示により事業の紹介に努めた。
- ・帯屋町アートボードに各催し物のポスターを掲示した。
- ・県内で開催された40件を超えるイベントで配布されるちらしへの挟み込みを実施した。
- ・ホームページ、フェイスブック、ツイッターなど、最新の電子メディアによる発信にも努めた。

3) 各イベントでの取り組み

- ・「四国へんろ展」では、全国のコンビニでの販促を強化した。また県庁生協と提携し、県庁内の全オフィスで前売り券を販売した。また日航旭ロイヤルと提携し、宿泊プランに組み入れた。
- ・「プライベート・ユートピア」では会期中に開催したホール・イベント「ビリー・カウイー公演」及び「秋の定期上映会」と相互の割引料金を設定し、販促に努めた。また四国内の英会話学校への広報を強化した。
- ・「新・高知の造型文化展」では「かつら祭」など出品者の関係する外部のイベントでも広報印刷物の配布に努めた。
- ・石元泰博の出身地の土佐市立高岡第二小学校で開催された「山の手ふれあいフェスタ」で広報印刷物を配布した。また石元展示室とシャガール・コレクション展の広報印刷物のデザインに統一感を持たせ、「2大コレクション」としてのイメージ強化に努めた。
- ・フランソワ・シェニョー & セシリア・ベンゴリア公演では県内で開催されるダンス公演のちらしに挟み込みを行ったほか、西日本のフランス語学校や劇場への広報を強化した。

評価	理由
B	・戦略的かつ計画的な情報発信により、県内外に館の魅力を広めることができた。

評価項目

(1) 県内外の他の博物館等と連携した事業の充実により、県民サービスの向上を図る

状況説明

1) 共同企画

- ・企画展「プライベート・ユートピア」は東京ステーションギャラリー、伊丹市立美術館、岡山県立美術館との共同企画による展覧会であり、各館の学芸員のそれぞれの手腕が発揮され、多様で充実した展覧会となった。
- ・西宮市立大谷記念美術館と平成27年度の企画展「具体の画家—正延正俊」を共同企画し、準備を進めている。
- ・鳥取県立博物館、埼玉県立近代美術館等と平成28年度の企画展「日本におけるキュビズム(仮)」を共同企画し、準備を進めている。

2) 作品の貸し出し

- ・横尾忠則現代美術館、川村記念美術館、県内外の7つの美術館に協力した。

3) 地域のネットワーク

- ・こうちミュージアム・ネットワークに幹事館として参加し、県内の博物館施設の連携に尽力した。また四国美術館会議でも幹事館として、今後の研究連携の素地をつくる提案や会議を行った。また四国地区博物館協議会、中四国地区公立文化施設協議会にも加盟し、地域のミュージアム間の協働を促進させた。

4) 全国のネットワーク

- ・全国美術館会議、美術館連絡協議会、日本博物館協会、社団法人全国公立文化施設協会など各種関係機関に加盟し情報交換を行うと共に、共同研究や共同企画を通じて県民に還元している。

5) ホール事業での取り組み

- ・「TWERK」公演では、青山円形劇場などと共同で海外招聘を行い、東京、高知、京都の3か所で公演を行った。また日本公演の共催をアンスティチュ・フランセ日本と行い、助成を得た。
- ・「ビリー・カウイー」公演では共催をブライトン大学、主に資金面でアーツカウンシル・イングランドから補助を受けた。
- ・平成28年度の公演に向けパービカンセンター(イギリス)、パース国際芸術祭(オーストラリア)と国際共同製作を進めた。
- ・全国の公的映画上映施設で組織している「シネマテーク・プロジェクト」に加入し、共同で企画、作品選定、上映を行った。

6) 講師派遣等

- ・高知県国際版画トリエンナーレ、九州国立博物館、徳島県立近代美術館等の外部委員を務めた。
- ・第7回いの美術展、第18回高知県障害者美術展等の公募展審査員を務めた。

評価	理由
A	・上記により、県民サービスの向上に努めたと評価できる。

要求水準－施設管理

施設及び設備の適切な保守管理をとおして、故障や事故のない運営を行う

評価項目

(1) 適切な管理運営の確保

社会的責任	・法令等の遵守 ・個人情報、情報公開の状況
建物や設備の管理	・点検、修繕の実績 ・業務委託の状況
危機管理	・風水害、火災、地震、盗難等危機管理対策 ・マニュアルの作成 ・職員研修

状況説明

1)社会的責任

・高知県立美術館の設置及び管理に関する条例並びに指定管理に関する協定等に基づき、適切な施設の管理運営に努めるとともに、専門業者へ委託した業務に関しても関連法規に沿った施設管理を徹底させた。

・平成 26 年度中の美術館に関する開示請求は 1 件(機械設備運転管理業務委託等入札記録)。

個人情報については、高知県文化財団個人情報保護規定に基づき、収集、利用を適正に行い、利用目的の終了した個人情報は、焼却処分した。保管の必要のない個人情報は、随時、裁断処理している。職員のパソコンには、パスワードを設定し、定期的にパスワードを変更するとともに、館外への持ち出しは原則禁止し、専用のモバイルパソコンを使用することとしている。また、USB を自宅に持ち帰らないことを徹底させている。

2)建物や施設の管理

・施設・設備の現状を踏まえた改修年次計画を精査し、県で対応する大規模改修等と連携させながら、経年劣化した設備の更新、危険個所の修繕を行った。(修繕件数 44 件 7,628,842 円)

・施設の管理運営のため、外部の専門業者に業務を委託した。(委託件数 41 件 71,225,816 円)

3)危機管理

・職員の異動がある年度初めに災害対策要領等を更新するとともに、館内に常駐しているレストラン、ミュージアムショップ、管理業務委託会社従業員も参加して、消防訓練、津波避難訓練を実施した。

・職員通用口等での出入りを記録し、不審者の侵入を防止した。また、搬入口の内、外 2 重シャッターは、搬入口使用マニュアルに沿って、事務室の許可を得たのち開閉することとし、不審者侵入防止と、外気、風雨の侵入抑制を図った

評価	理由
B	・上記により、適正な管理運営が遂行されたと認められる。

評価項目 (2) 利用者サービスの維持向上	
サービス向上への 取り組み	・利用者の意見の反映 自己点検、評価の状況 ・事故、クレームへの対応 ・職員の専門性の向上 ・研修の実施状況 ・その他サービス向上の取り組み

状 況 説 明
<p>1) 利用者の意見の反映 自主事業の内容・年間の組み合わせ等は、利用者の多様な意見を勘案しながら、長期的な視点で、総合的、計画的に決定している。施設・設備面の要望等は、緊急性・必要性を判断したうえで、必要なものから対応しており、当年度は石元泰博展示室等の整備と全館のトイレの洋式化を実施した。日常の運営に関するソフト面での意見等については、速やかに組織内で共有し、対応策を決定することとしている。</p> <p>2) 自己点検・評価の状況 日々の取り組みに対する点検・評価は、まず各職員が行い、随時または翌日の朝礼、月 1 回の館会議等で情報を共有し、必要なものは改善のための方策、必要な体制を構築し、全員で共有した。また、アンケート調査結果を含めた事業の実施結果をもとに、館会議で問題点や改善策を協議確認し、その後の取り組みにフィードバックした。さらに、館職員によるサービス部会や CS(顧客満足)部会を定期的に関催し、利用者の視点からの課題の洗い出しや対策を検討し、館会議で議論したうえで、実践につなげた。</p> <p>3) 事故、クレームへの対応 クレーム、要望等については、即応できない場合は上司と相談し速やかに対応するとともに、その状況を朝礼等で報告した。事故に対しては、管理職に報告・相談しながら、速やかに対応した。</p> <p>4) 職員の専門性の向上・研修の実施状況 様々な機会をとらえて積極的に職員を参加させるとともに、採用後 1 年目 2 年目の職員については、3 年計画で OJT 研修を進め、資質の向上に努めた。 東京都写真美術館へ派遣(3 カ月、学芸員 1 名)、国立国際美術館へ派遣(3 カ月、学芸員 1 名) パリ写真月間等視察、情報交換(13 日間、学芸員 1 名)、財団接遇研修(8 名)、財団新採研修(1 名) 財団他館での実地研修(7 名)、財団中堅職員研修(6 名)、観光コンベンション協会接遇研修(1 名)</p> <p>5) その他サービス向上の取り組み 展覧会ごとに、職員向けのギャラリートークを実施し、展示作品や作家に対する知識を深めた。</p>

評 価	理 由
B	・上記により、利用者サービスの維持向上に努めたと認められる。

評価項目

(3)利用実績

利用実績の状況	・利用状況の分析
---------	----------

状況説明

1)利用実績の状況

- ・展覧会入場者数 41,702 人(常設展 5,303 人 企画展 24,443 人 特別展 11,956 人)(対前年比 44%)
 - ※企画展のうち、四国へんろ展は歴史民俗資料館との共同開催、入場者 13,572 人
 - ※特別展はミレー展、高知 H26.2.2～H26.4.6 まで開催(会期全体の入場者は、55,877 人)
- ・県民ギャラリー等貸館入場者数 89,067 人(対前年比 90%)
- ・美術館ホール自主事業入場者数 2,626 人(対前年比 125%)
- ・美術館ホール貸館入場者数 30,854 人(対前年比 100%)

2)利用状況の分析

- ・当年度は、石元泰博展示室等の整備のため 5/7～7/31 の間、休館した。美術館ホールも、トイレの洋式化工事のため 1/11～3/7 の間閉鎖した。
- ・約 4 カ月休館したこともあり、入場者数は集客力のある大型企画が続いた前年度を下回った。
- ・また、常設展も約 5 カ月の休館期間があり、同様に入場者数は前年を下回っている。
- ・一方で、四国へんろ展を歴史民俗資料館と共同で開催したことや、10 月から新たに石元泰博の常設展示を開始したことで、合計 41,702 人の展覧会入場者があった。
- ・以上より、休館期間を勘案すると、年間5万人の集客目標を十分に達成し得るペースで来場者があったと考えられる。
- ・県民ギャラリーは約 3 カ月間閉鎖したため、第 4 展示室も貸館に充て利用者の受入れに努めたことにより、利用団体は延べ 31 団体と前年度より 6 団体増加したが、入場者が前年度を下回った。
- ・ホール自主事業は、開催日数が 14 日で前年度より 12 日減ったが、開館記念日の映画の無料上映や定期上映会の入場者増加により、入場者が前年を上回った。
- ・ホール貸館事業では、利用団体等数はほぼ前年並みで、入場者も前年並みとなった。

評価	理由
B	・当年度は、美術館、ホールともに改修工事等による長期休館を行ったため、展覧会では入場者数が目標を下回っている。一方で、ホールは入場者数が伸びており、また休館に伴う貸館事業への影響を抑えるため他の展示室を貸館に対応させて利用団体数を増やすなどの努力も認められる。

評価項目
(4)収支の状況

経営努力	・収入増加の取り組み	・経費削減の取り組み
------	------------	------------

状況説明

1)収入増加の取り組み

- ・質の高い事業を実施するため、日頃から国内外の関係機関との協力体制を構築し、また舞台芸術関連の見本市や展覧会の視察も積極的に行うなど、常に最新の動向、情報にアンテナを張った。
- また、開催にあたっては数年かけて入念に準備し、広報について職員間で検討を重ね、効果的な広報に努めた。
- ・利用料の減免等の活用として、他の文化施設や企業(JAF等)と連携した利用料の一部減免やタウン誌への招待券提供により、誘客につなげた。
- ・また、当年度は改修工事等のため閉室予定としていた展示室が、工期等の都合から急きょ使用できるようになったため、館蔵品による高知家の宝もの展を開催し対応した。また、第4展示室を貸館に提供し、県民ギャラリー利用希望者の要望にこたえるとともに、館の収入増につなげた。
- ・実施する事業の内容の充実を図り、外部資金の導入を進めた。

2)経費削減の取り組み

- ・入札制度、相見積もり等を活用し、委託料等の経費削減に努めた。
- ・事務スペースでの省エネ・省資源の徹底を推進した。
- ・輪転機を活用し、チラシ作製等の経費を圧縮した。
- ・県と四国銀行等との協定を活用し、県内外でのチラシ配布経費を圧縮した。

3)収支の状況

改修工事等の影響で、展覧会入場者が目標を下回り、観覧料は予算額に達しなかったが、県民ギャラリー等使用料は、予算額を上回っている。収入全体でも予算額を下回ったが、経費削減に努力したことで、事業活動収支は黒字となった。

評価	理由
B	・上記により、収入増加や経費削減の取り組みに努力が認められる。

評価	理由
A	<ul style="list-style-type: none"> ・初めての試みである歴史民俗資料館との共同企画「四国へんろ展」を成功させた。 ・石元泰博展示室がオープンし、石元泰博とシャガールという二大コレクションを常時紹介できる体制が整った。石元展示室では、貴重な写真作品はもちろんのこと、愛用のカメラや家具に至るまでを紹介し、多彩なコレクションを有するフォトセンターだからこそ可能な展示を行った。また、教育普及の分野でも、これまでの活動を見直し、新たなプログラムを構築する取り組みに着手した。 ・ホール事業については、公演ごとにワークショップやアフタートークを行うなど事業を楽しみ、より理解してもらえる取り組みを行い、海外関係機関との継続的な協力、共同制作により、国内外に高知県立美術館の名を発信した。 ・職員の専門性、資質の向上のために、長期的な研修にも積極的に参加するなど人材育成にも尽力し、アートの拠点として質の高い事業を提供できる体制が整っている。 ・以上のことから、要求水準を上回る成果があり、優れた管理運営・事業の遂行がされたと認められる。

評価基準

- 「A」 要求水準を上回る成果があり、優れた管理運営・事業の遂行がされた。
- 「B」 概ね要求水準どおりであり、適正な管理運営・事業の遂行がされた。
- 「C」 要求水準に達しない面があり、改善のための工夫や努力が必要。
- 「D」 管理運営・事業の遂行が適正に行われたとはいえ、大いに改善を要する。